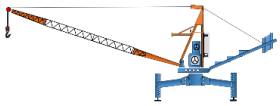
# 現場見学会を留萌で開催



## 木幡室工大教授も参加　35 人が相取を体験

主催:急傾斜地工法研究会/相取工法協会　　2024.8.30

急傾斜地工法研究会（会長:中塚卓朗伊丸特殊工事副社長）と相取工法協会（同）は 8 月 30 日、令和 6 年度第一回目の現場見学会を留萌市内で開催した（通算で 3 回目）。

見学現場は、留萌建設管理部発注の「留萌南町 4 丁目 2 急傾斜地崩壊対策工事」で堀口組が施工中。参加者は、会員各社はもとより留萌建管の須川一規治水課長ら 6 人、道建設部の星井篤郎砂防係主査などの参加を含め 35 人が集まり、ほかにも学識者として地盤工学を専門とする室蘭工大の木幡行宏教授（当会技術顧問）も駆けつけた。

現場は、国道 233 号の留萌市内への入口付近。国道から山側に 20 ㍍ほどのすぐ目につく場所に位置し、ジブクレーンが設置され土留柵工を伊丸特殊工事が請け負っていた。昨年も留萌で現場見学会を実施しているが、全体作業を見渡せるロケーションの良さと進捗状況から今回も見学会に選んだ。南町の急傾斜地崩壊対策事業は、10 年前から急傾斜地の左側から右側へ順番に事業を展開していて、斜面の下には運送会社、アパート、飲食店などが並んでいる。

はじめに中塚会長があいさつで、多数の参加に感謝するとともに「ここは相取工法が設計に組み込まれており、在来工法に比べて、より安全で施工時間短縮など生産性向上に貢献している」と工法のメリットを強調し、これまでの施工個所に緑が復元している点も利点として付け加えた。

続いて留萌建管の須川治水課長があいさつで見学機会を得られたことに感謝を述べ、堀口組の板垣良則現場代理人が工法の概要と今後のスケジュールを説明した。　見学に先立ち 2 台のジブでホッパーを上げ下げするデモを行い手順の紹介をした。

工事は、上 2 段目まではボーリングを終え土留杭（H 形鋼杭）が建て込まれているほか、3 段目も段切り（斜面を作業しやすく整地）が済み仮設足場を設置する状態。前の週までジブクレーン 3 台で相取を行っていたが、工事の進捗が上段から中段に進んだため 1 台を解体し、今週から 2 台の稼働になっていた。参加者らは、担当者に質問をするなど熱心に見識を深めていた。

最後に木幡教授、阿部島啓人急傾斜地アドバイザーにも感想をいただいた中で「この工法は急傾斜地以外でも用途が広がるのではないだろうか（木幡）」と今後の可能性にも期待を寄せていた。

急傾斜地現場を初めて視察した木幡教授（右）

*当日は留萌市内の最高気温が 31.3℃と上昇し、熱中症に注意しながらの厳しい見学会となりました。参加された皆様、大変お疲れさまでした。